

平成 25 年度

第 15 回米子市水道事業審議会 会議録

○開催日時 平成 25 年 11 月 29 日(金)
午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分

○開催場所 米子市水道局大会議室

○出席者

委員（敬称略）：住田篤美・大西喜久子・野田親弘・藤江敏子・
櫻田恭一・前田香代子・小林幸子・和田季子・
石倉恵子・中嶋紀恵

欠席者：矢野孝雄・小椋あけみ・松田葉子

米子市水道局：中原水道事業管理者・森上副局長兼総務課長
大縄次長兼計画課長・小野川次長兼営業課長・
八幡次長兼施設課長・江原浄水課長・森井水質
管理課長・松田給水維持課長・金田境港営業所
長・高林主査兼浄水課戸上配水係長・仲田主査
兼給水維持課給水係長・星野主査兼浄水課車尾
配水係長・湯崎総務課会計係長・山内総務課主
任・事務局

○日程

1 議題

(1) 平成 24 年度米子市水道事業会計決算状況について

2 その他

(1) 新配水池設置事業の進捗状況について

○公開又は非公開の別
公開

○傍聴者数（報道関係者を除く）
なし

○会議資料の有無
有り

○お問合せ先
米子市水道局計画課企画調査係（TEL. 0859-32-6112）

1 議題（議題の概要及び質疑）

（1）平成 25 年度米子市水道事業会計決算状況について

＜案件説明：湯崎総務課会計係長＞

企業会計の考え方について

企業会計の大きな三つの特徴として、1 ふたつの財布、2 減価償却、3 補てんについて説明。

収益的収支の年度比較

平成 24 年度の営業収益は約 31 億 4 千万円。その中で水道料金による収入である給水収益は、23 年度と比較して約 0.4%、金額にして約 1,300 万円減少した。給水収益は年々減少してきており、不安材料となっている。

平成 24 年度の営業費用は約 24 億 9,000 万円。口径 50mm 以下の配水管の会計上での位置付けを、収益的収支から資本的収支に変えた事などにより、23 年度と比較して 1 億 5,000 万円程減少した。

その他費用を差し引いた、当年度の純利益は 4 億 3,900 万円で、23 年度と比べて約 1 億 2,500 万円の増となった。

前年度までの繰越利益剰余金が、約 8 億 5,900 万円あり、当年度の純利益と合わせた当年度未処分利益剰余金が 12 億 9,800 万円となり、これが実際に年度末に残った金額となる。

資本的収支の決算について

投資的な費用の収入が 6 億 9,000 万円。内訳は企業債 4 億 8,000 万円、工事負担金 1 億 4,500 万円、他会計出資金 6,500 万円である。

支出に関しては、建設改良費 10 億 2,300 万円、企業債償還金には 9 億 6,000 万円程を充てており、全体で 19 億 8,000 万円となった。

24 年度は、差引き 12 億 9,000 万円の不足が出た計算になる。

資本的収支への補てんについて

収益的収支で計上している減価償却費を、資本的収支の補てん財源とする。収益的収支で費用として計上しているが、実際には現金の支出を伴わない費用である約 9 億 2,200 万円で、資本的収支の不足額を補う。それでも補えない不足額を、繰越利益剰余金 12 億 9,800 万円か

ら補てんする。

補てん後の繰越利益剰余金残高は 9 億 2,600 万円となり、そこから減債積立金として当年度は 2,200 万円の積立を行っている。

以上で、最終的に平成 24 年度に残った利益剰余金は 9 億 400 万円となる。

財務や経営に関する指標の推移と比較

7つの区分の指標について説明すると共に、平成 22 年度から当年度までの 3 年間の指標の推移を報告。また全国平均と同時に、鳥取市、松江市の指標値と当市を比較した。

質疑応答

【住田委員】 皆さん、資料をご覧になって、ご意見ご質問があればご遠慮なくどうぞ。

【大西委員】 事前送付された資料を見てみたが、内容が良く理解できなかった。今回説明を受けて、経営状態についても、近隣の水道局と比較して良いと判断できると思った。

給水収益が減少する中で、最大限以上の努力をされているのかなと感じた。これからもぜひ、いつでもおいしい水が頂けるよう宜しく願います。事業運営の上で特に重要だと考えている部分はどこか。

【湯崎係長】 資料の中で比較している二市、鳥取市の場合は大きな浄水場が必要であり、松江市に関してはダムに頼っている部分が多いという状況にある。当市の場合、職員も当然努力しているが、それ以上に大山をはじめとする恵まれた自然環境のおかげで、いい水を費用をかけずに送る事ができていると思う。

【大西委員】 環境にも恵まれていることで、経費をかけずに水道事業が運営できている事が分かった。

【和田委員】 今まで数字などが読み取れずにいたが、この資料を今後毎回持参して手引きにしたいほどで、細かく説明していただいてありがたく思う。

【野田委員】 決算書の 7 ページの流動資産の内、未収金 431,613,288 円となっているが、この回収方法についてお聞きしたい。

【湯崎係長】 これはほとんどが水道料金であるが、3 月 31 日時点の金額であり、請求済みであるがかなりの水道料金がまだ入金されていない状態である。最終的には 100%に近い回収率となっている。

- 【藤江委員】24年度の決算報告書をみると、大変努力された結果が数字に表れていると思う。本日の説明は本当に良かったと思う。家計簿くらいしか馴染みのない主婦には、会計の仕組みを理解しづらいが、手元において参考にしたい。
- 【小林委員】毎回、資料の数字の意味が読み取れなくて困っていた。今日、会計係長から事細かに説明してもらい、良く分かったような気がする。少し自信がついた。
- 【大西委員】先程野田委員から質問のあった未収金についてだが、どのような方法によって100%近くまでの回収を実現しているのか。
- 【小野川次長】最初に口座振替や納付制による請求を行い、その段階で納めていただけなかった場合は、未納のお知らせというはがきを発送する。口座振替の場合は再振替を行う。それでも納められない場合は、月末に督促状を発送する。督促状を3回発行すると停水処分となり、水道局としては心苦しいが、給水を停止する。この停水処分があるために高い収納率が維持できていることは否定できない。
- 【住田委員】今収納率はどの程度であるか。
- 【小野川次長】先程説明のあった3月末現在が約92%であったが、半年程度経過すると99.9%まで収納できている。
- 【大西委員】良く分かった。
- 【藤江委員】コンビニ収納を開始されたが、状況について聞きたい。
- 【小野川次長】10月から実施している。10月18日に発送した納付書についての、11月15日までのデータでは2,148件のコンビニでの支払いがあった。これは未納のお知らせや督促状による支払件数も含まれており、納付制の方で実際に利用された割合は約3割程度だと思われる。利用された店舗は、ローソン、ファミリーマート、ポプラがほとんどであった。
- 【野田委員】報告書の中で、口径を50mmから250mmへと変更されているが、この口径が大きくなったことに伴い、水道料金も高くなるのか。
- 【大繩次長】その記載は本管についてであり、その口径を変更した事により、各戸の水道料金が変わることはない。50mm以下の管はこれまで、経常的収支で消耗品としていたが、実際には何十年にもわたって使用することから、今後は資産で扱おうと資本的収支へと財布を変えたという風にご理解いただきたい。
- 【前田委員】3番の流動比率についてであるが、これが高いほうがより支払い能力があるとの説明であった。他市と比べると低いの

は、これは規模的に小さいからであるか。

【湯崎係長】現金が多いか少ないかという事になると思う。減価償却という考え方の中では、実際に金銭が動いていないが、その費用を計上する。先程、それを補てん財源として使用すると説明した。それが余ってくる事業体が数多くあり、松江市もそのひとつであるので例に挙げると、40億円、50億円といった資金を現金で保有している。それは先々で行う、大規模な更新のための蓄えということであると思われる。米子市の場合には10～15億円程度である。

【石倉委員】コンビニ収納が始まったが、年配で一人暮らしをされている方の中には、コンビニまで行けない方もおられるようだ。

【住田委員】現在も、特別な事情があって、申し出があれば集金に応じているのか。

【小野川委員】集金も存続している。

【中嶋委員】「よなごの水」の売れ行きはどうか。

【大縄次長】市役所のふるさと納税が全国的に人気だという事はご存じかと思う。水道局も「米子市民体験パック」に「よなごの水」を一本、無償提供している。それが近年、異常な本数を数えるまでになっている。年々倍々ゲームの様に増えており、売れる本数よりそちらの方がはるかに多い。水道水のPRとして製造しているので、価格もワンコインという事にこだわって当初からの1本100円で据え置きしている。その実現のために、職員が原水を運搬し、製品を引き取りに行き、やっと何とか原価98円で製造している。4月に消費税率が8%になると、99.6円の原価となるため、局議で価格について検討した。その結果、ぎりぎり赤字にならないので、100円で頑張ろうという結論に達した。この様な現状であるので、人気が出るのは大変に有難いが売れても利益にならない、ふるさと納税への提供でどんどん赤字といった状況である。消費税率が10%へアップすれば、確実に赤字となるので、その際には皆さんにご相談させて頂く事になると思う。

【住田委員】一般の企業では、基本的に宣伝費についてはその様な考え方であり、米子市の宣伝費であると思えば安いのではないか。

【大縄次長】おっしゃる事は理解する。しかし御存知のように、水道事業は独立採算制であり、市からの補てんが基本的にないため、赤字が増える一方の状況はどうかと考えている。

【住田委員】しかし市民サイドからすれば、同じ米子市役所の部署とし

て、本庁であろうが水道局であろうが変わりはないと考える。

【櫻田委員】二点質問する。まず決算書の10ページに業務量として記載されている数字を見ると、配水量23,608,335 m³に対して給水量21,635,380 m³と差が200万m³もあるのは何故か。もう一点は18ページの保存工事の概要では、日吉津水源地に関する工事があるが、19ページでは日吉津水源地の配水量は0になっている。同様に稲吉水源地も配水量が0であるが、理由について伺いたい。

【大繩次長】配水量と給水量について説明する。配水量とは水道局が送り出している水の量であり、その中には漏水や消火栓使用の他、工事で使う水等も含まれている。給水量は収益のある水量であるため、おのずと差が出てくる。

【江原課長】稲吉水源地については、山の中に水源地および配水池があり、冬になっても除雪してもらえず、稲吉地区から徒歩で約3km雪道を登って行かなければならない。標高が高く雪もなかなか溶けず、以前には崖が崩れたこともあるなど、安定したメンテナンスがしにくい箇所であった。その対策として現在は、高井谷水源地から配水管を約1km延ばして稲吉地区の配水を行っている。中電との受電契約も止めてあるが、設備は残っているので必要な時が来るまで休止させる。

櫻田委員のご指摘どおり、日吉津水源地も休止している。その理由としては、水質が悪くなっていた事。また電気設備が故障したが、修繕費よりも米子から配水した方がコストが低いのである。水圧や流量、濁度を監視するための一部の装置を除き、現在使用を停止している。

また車尾水源地においても、深井戸1号・浅井戸3号・浅井戸4号は水質の低下が理由で休止している。これら休止中の井戸については、国交省から水利権を返還するよう求められているが、緊急時に取水できる様に準備を整えている。しかし余程の大災害に見舞われない限り、これらを使用する事は無いと考えている。

【住田委員】他に何かご質問はないか。よろしいか。

私は監査委員という立場上、毎月水道局の出納を見させてもらって久しい。今後も続く課題として、資料の4ページの区分4の料金収入に対する企業債残高の割合をご覧いただきたいが、米子市は全国平均よりも高い。これは止むを得ない面があり、水道事業というのは設備投資の事業であり、どう

しても設備を更新していく必要があり、その都度企業債で事業を進めなければならない、なかなか借金が減っていかない。ただ幸いなことに米子市の場合、非常に経費の節減等に努力され収益を出しておられ、借金の残高は軽減してきている。それに伴い支払利息も軽減しており、非常に良い経営状態であると言える。その点では心配はしていないが、基本的に借金が多いという事は一つの課題であると言える。ではあるが今まで監査員として見てきた結果、まず問題はないだろうと思う。この度の決算についても、非常にいい結果を残していると私は判断する。以上で当審議会として、平成24年度の決算に関して承認する事とする。

2 その他

(1) 新配水池設置事業の進捗状況について

＜案件説明：八幡次長兼施設課長＞

お手元に資料として、配水池造成工事写真をお配りしている。現在は、12月までの遺跡調査を行っている段階であり、配水池の建設予定地では大きな工事は進んでいない。

事業のスタートは4月末、安全祈願祭の一週間程後から写真撮影を開始し、大体月末に写真を撮るようにした。

米子バイパスから見た予定地写真をご覧いただきたい。右手側の遺跡調査を行わない箇所に雨水洪水調節池を設計し、大雨の際に流れ出す雨をここで一旦受けて、適正量にして河川に放流する。昨今のゲリラ豪雨などを想定し、時間雨量200mmにも耐える規模とした。10月の写真が現状に一番近いと言えるが、現在雨水洪水調節池は、ほぼ完成している。

12月に遺跡調査が終わると、雨水洪水調節池の所から進入路を作り、配水池建設工事のための造成工事に入る。

遺跡調査について報告させていただく。写真の様な石棺が出土しているが、特に大きな遺物は発掘されていない。正式な報告には、12月の調査終了後の報告書を待つ事とする。

来春本格的な造成工事に入り、本体工事前にも地鎮祭を行うが、その時には皆様にもご案内する。

質疑応答

【住田委員】石棺の中から骨は出たのか。

【八幡次長】骨はもう溶けていた。調査前から前方後円墳が一基と円墳が数基と聞いており、費用については、以前ご報告した様に約1億円である。

【住田委員】その他お聞きになりたい事はないか。よろしいか。

それでは事務局から連絡事項があればお願いします。

【鷲見係長】審議会委員の皆様は、明日11月30日をもって任期満了となる。任期2年間、お世話になり大変感謝する。

私共としては、米子市水道事業審議会条例3条第4項に基づき、ぜひ引き続き再任いただきたいと思い、すでに皆様にお願いとご相談をさせていただいた。

この度、矢野委員様、前田委員様、石倉委員様の3名の方から、一身上の都合で再任を辞退される申し出があり、事務局として了解したので、この場を借りてご報告させていただく。

矢野様、前田様におかれては、当審議会発足当初からの4期8年に渡り審議委員として務めていただき、その間貴重なご意見を頂き、米子市水道事業の運営に対して大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

また石倉様におかれても、2期4年に渡って米子市水道事業に対しご指導賜り、お礼申し上げます。

3名の皆様には厚く御礼申し上げますと共に、今後とも米子市水道局に対し、一層のご指導、ご鞭撻を賜るようお願い申し上げます。

再任にご承諾いただいた委員の皆様。大変お忙しい身であるにも関わらず、お引き受けくださり、心から感謝する。引き続き私共に、皆様のお力添えをいただきたい。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

次回審議会の開催は2月末頃を予定している。

以上で今審議会を閉会する。